

# 日本生命倫理学会 第 30 回年次大会 プログラム

---

第 1 日目 12 月 8 日 (土)

## メイン会場 (歴彩館、大ホール)

11:00~11:45 大会長講演

生命倫理・パターンリズム・法と行動経済学

日本生命倫理学会第 30 回年次大会 大会長：瀬戸山 晃一 (京都府立医科大学)

11:50~12:20 【30 周年記念大会企画①】学会 30 周年に寄せてのメッセージ

海外の生命倫理学者からのビデオメッセージの紹介など

13:50~15:10 【30 周年記念大会企画②】シンポジウム I

学際的「知の協創」としての生命倫理学

座長：瀬戸山 晃一 (京都府立医科大学)

パネリストは各分野からご登壇いただく予定です

15:20~16:40 【30 周年記念大会企画③】シンポジウム II

日本生命倫理学会の役割と今後の展望

座長：松原 洋子 (立命館大学)

講演：木村 利人 (第 7 期 代表理事)、大林 雅之 (第 8 期 代表理事)

パネリスト

木村 利人 (第 7 期 代表理事)

大林 雅之 (第 8 期 代表理事)

甲斐 克則 (第 9 期 代表理事)

赤林 朗 (第 10 期 現・代表理事)

## A会場(稲盛記念会館1F:104)

9:00~9:15 開会式

16:50~18:20 国際セッションA(シンポジウム)

脳組織バンク・ニューロモジュレーション・人工知能:アジアにおける経験に基づく  
哲学的省察と実践的視座

オーガナイザー: 栗原 千絵子(国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構)

シンポジスト:

「On the purpose of this symposium with overviewing the biomedical turn in Japan」

栗原 千絵子(国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構)

齊尾 武郎(フジ虎ノ門整形外科病院)

「Basic motivation and future of neurotechnology development and role of  
neuroethics: current activities in Korea」

Young-Joon Ryu(韓国国立江原大学校)

「The ethical challenge in the era of big data and artificial intelligence: current  
consideration in Taiwan」

Daniel Fu-Chang Tsai(国立台湾大学)

## B会場(稲盛記念会館1F:102)

9:20~10:50 公募シンポジウムI

遺伝子操作と人間の尊厳

オーガナイザー: 盛永 審一郎(富山大学)

シンポジスト:

「遺伝子操作は「人間の尊厳」と両立可能か?」

盛永 審一郎(富山大学)

「「道徳的地位」と日本の生命倫理学」

江口 聡(京都女子大学)

「キリスト教人格主義の立場から」

秋葉 悦子(富山大学)

司会・コメント 松島 哲久(大阪薬科大学)

第1日目 12月8日(土)

16:50~18:20 公募シンポジウム II

臨床倫理サポートとしての倫理カンファレンス：MCD(moral case deliberation)の可能性

オーガナイザー：田代 志門 (国立がん研究センター)

シンポジスト：

「MCD (moral case deliberation) の背景・流派・共約性」

服部 健司 (群馬大学)

「ジレンマメソッドの日本への導入：その可能性と課題」

田代 志門 (国立がん研究センター)

「ジレンマメソッドによる MCD:ファシリテーターの役割と国内での実装における課題」

清水 千佳子 (国立国際医療研究センター)

指定発言： 尾藤 誠司 (東京医療センター)

C会場 (稲盛記念会館 1F : 103)

9:20~10:50 公募シンポジウム III

高齢者の<老い方=生き方>のモデル——老成学によるアンケート調査から——

オーガナイザー：森下 直貴 (浜松医科大学)

シンポジスト：

「本シンポジウムの問題設定、方法論的枠組みおよび仮説」

森下 直貴 (浜松医科大学)

「エイジレス就労の実態から高齢者の<老い方=生き方>モデルを考える」

藺牟田 洋美 (首都大学東京)

「最晩年期の高齢者の生き方に関する調査から高齢者の<老い方=生き方>モデルを考える」

鶴若 麻理 (聖路加国際大学)

16:50~18:20 公募シンポジウム IV

ゲノム合成技術の出現——合成生物学の進展とその ELSI——

オーガナイザー：四ノ宮 成祥 (防衛医科大学校)

シンポジスト：

「シンポジウム開催の趣旨／合成生物学研究のこれまでの経緯・課題」

四ノ宮 成祥 (防衛医科大学校)

「ゲノム合成・合成生物学の現状と展望」

荒木 通啓 (京都大学)

「米国におけるゲノム合成・合成生物学の最近の動向」

須田 桃子 (毎日新聞東京本社)

「ゲノム情報を取り巻く ELSI」

三成 寿作 (京都大学)

指定発言： 児玉 聡 (京都大学)

第1日目 12月8日(土)

## D会場(稲盛記念会館2F:208)

9:20~10:50 公募シンポジウムV

「和田心臓移植」に生命倫理学はどう向き合ったか——50年後における課題をめぐって——

オーガナイザー:大林 雅之(東洋英和女学院大学)

シンポジスト:

「和田心臓移植チームの手術誘因のレトリックをめぐって」

村岡 潔(佛教大学)

「心臓移植言説 世界初と日本初の間で」

美馬 達也(立命館大学)

「臓器移植における文化概念を使った「抵抗」の興隆と挫折そして再生について」

池田 光穂(大阪大学)

「「和田心臓移植」と現在の課題」

大林 雅之(東洋英和女学院大学)

16:50~18:20 公募ワークショップI

生命倫理学と生命倫理人材の在り方——課題と対応——

オーガナイザー:河原 直人(九州大学)

報告者:佐藤 真輔(文部科学省)

伊吹 友秀(東京理科大学)

福土 珠美(日本医療研究開発機構)

## E会場(稲盛記念会館2F:210)

9:20~10:50 公募ワークショップII

優生保護法下の強制不妊手術と生命倫理

オーガナイザー:松原 洋子(立命館大学)

報告者:利光 恵子(立命館大学)

齋藤 有紀子(北里大学)

松原 洋子(立命館大学)

16:50~18:20 公募ワークショップIII

尊厳ある人生の最終段階はどのようにして実現できるのか

オーガナイザー:堂園 俊彦(静岡大学)

報告者:松田 純(静岡大学)

三浦 靖彦(東京理科大学)

天野 ゆかり(静岡県立大学)

第1日目 12月8日(土)

## F会場(稲盛記念会館2F:204)

10:05~10:50 一般演題(口演)I 臨床倫理、看護倫理/宗教、思想、文化

座長:霜田 求(京都女子大学)

- ①「精神科病院で終末期の患者に顕現した「顔」」  
三笠 雅也(京都大学 博士課程)
- ②「安死術と闘病術——小酒井不木の生命観——」  
寿台 順誠(早稲田大学 博士課程)

16:50~18:00 一般演題(口演)II ケア・介護・福祉

座長:会田 薫子(東京大学)

- ①「在宅医療を受ける医療的ケア児の支援と子どもの参加  
——就学先決定にかかわる検討を中心に——」  
山本 智子(埼玉学園大学)
- ②「倫理面に配慮した Socially Assistive Robotics の介護利用に向けて」  
恋水 諄源(大阪大学 博士課程)
- ③「医療的ケア児の教育機会をいかに保障するか」  
森 禎徳(東邦大学)

## G会場(稲盛記念会館2F:205)

9:20~10:50 一般演題(口演)III 臨床倫理、看護倫理/医療安全・医薬品評価

座長:河原 直人(九州大学)

- ①「臨床倫理コンサルテーションにおける相談カテゴリの分析と今後の課題  
——宮崎大学医学部附属病院臨床倫理部のクリニカルインディケータをもとに——」  
三浦 由佳里(宮崎大学)  
板井 孝孝郎(宮崎大学)  
綾部 貴典(宮崎大学)
- ②「臨床薬剤師が直面する倫理的問題——ナラティブ・アプローチからの考察——」  
大谷 真生(東京薬科大学)  
櫻井 浩子(東京薬科大学)
- ③「救急医療における心肺蘇生と家族の立ち会い」  
中澤 慧(群馬大学 博士課程)
- ④「産科混合病棟で起こっている倫理的課題——他科の患者の死亡時の看護と分娩時の看護を同時に受け持たざるを得ない助産師の実態——」  
齋藤 いずみ(神戸大学)

第1日目 12月8日(土)

16:50~18:20 一般演題(口演) IV 臨床倫理・看護倫理

座長: 中尾 久子(九州大学)

- ① 「急性期病院でのアドバンスケアプランニングの実践  
——医師、看護師が高齢患者への意向確認するタイミングの分析を通して——」  
鶴若 麻理(聖路加国際大学)  
池口 佳子(武蔵野大学)  
中村 めぐみ(聖路加国際大学)
- ② 「女性の分娩様式に関する選好に対する受入れの限界とその原因についての検討」  
中井 祐一郎(川崎医科大学)  
比名 朋子(川崎医科大学)
- ③ 「多系統萎縮症の呼吸補助を巡る倫理問題」  
徳永 純(狭山神経内科病院)
- ④ 「臨床倫理コンサルテーションの制度化に向けた取り組み——その課題と展望——」  
笹月 桃子(九州大学)  
河原 直人(九州大学)  
賀来 典之(九州大学)

H会場(稲盛記念会館2F:206)

9:20~10:50 一般口演 V 生殖医療・産育・家族

座長: 藤田 みさお(京都大学)

- ① 「匿名化卵子提供による生殖補助医療の家族形成支援  
——台湾の実施機関での取り組みより——」  
柳井 圭子(日本赤十字九州国際看護大学)  
シャルマ 直美(福岡県臨床心理士会)  
大北 啓子(セントマザー産婦人科医院)  
内田 美津子(セントマザー産婦人科医院)
- ② 「理想的な配偶子ドナーとはどのような人か  
——ニュージーランドと英国でのドナーへのインタビューから——」  
仙波 由加里(お茶の水女子大学)
- ③ 「スイスにおける着床前診断をめぐる法的・倫理的問題」  
三重野 雄太郎(佛教大学)
- ④ 「フランス生命倫理法2018年改正と市民参加  
——生殖医療をめぐる議論を中心に——」  
小門 穂(大阪大学)

## ポスター会場 (稲盛記念会館 2F : 209)

12:50~13:40 一般演題 (ポスター) I

座長: 神里 彩子 (東京大学)

- ① 「妊娠中の女性を被験者とする際の配慮内容」  
加藤 太喜子 (岐阜医療科学大学)
- ② 「新生児マス・スクリーニングに対する意識  
——2014年4月以降に出生した子どもを持つ男性の遺伝情報に対する語りから——」  
笹谷 絵里 (立命館大学 博士課程)
- ③ 「これから高校の生物基礎で、脳死をどう教えるか」  
白石 直樹 (東京都立淵江高校)
- ④ 「摂南大学薬学部1年生の生命倫理に関する意識調査」  
岩崎 綾乃, 目加田 彰子, 大塚 洋, 曾根 知道 (摂南大学)
- ⑤ 「看護系大学実習において教員が必要だと考える生命倫理の教育と実態」  
柴田 恵子, 川本 起久子 (九州看護福祉大学)
- ⑥ 「レポートからみる学生が考える生命倫理学的問題」  
横田 恵理子 (慶應義塾大学)  
小林 典子 (慶應義塾大学)

## 評議員会会場 (稲盛記念会館 2F : 203)

12:30~13:40 評議員会

第2日目 12月9日(日)

## メイン会場 (歴彩館、大ホール)

13:45～15:00 総会

## A会場 (稲盛記念会館 1F : 104)

8:45～10:30 国際セッションB (シンポジウム)

### **New Technology and Old Desire — An International Dialogue of Ethical Problems on Genetics and Reproductive Medicine**

オーガナイザー : Keiichiro Yamamoto (University of Tokyo)  
Satoshi Kodama (Kyoto University)

シンポジスト :

「Genetic parenthood, assisted reproduction, and the values of parental love」

Justin Oakely (Monash University)

「The kid is not my son”: Reproductive technologies and the right not to be made a parent」

Robert Sparrow (Monash University)

「Nuclear families: Mitochondrial replacement therapy and alterity in maternal relations」

Catherine Mills (Monash University)

「Mitochondria Replacement and “Tri-Parents Baby - Normative and Practical Challenges」

伊吹 友秀 (東京理科大学)

10:40～12:10 学会企画シンポジウム

### **ヒト生殖細胞系ゲノム編集をめぐる倫理——その論点と公的議論のあり方——**

オーガナイザー : 安藤 泰至 (鳥取大学), 香川 知晶 (元山梨大学)

シンポジスト :

「ヒト生殖細胞系ゲノム編集後の有害事象」

石井 哲也 (北海道大学)

「ゲノム編集を規制する理由とその根拠」

島菌 進 (上智大学)

「ヒト生殖細胞系ゲノム編集に関する法規範定立において考慮すべき人権の考察」

建石 真公子 (法政大学)

コメンテーター : 美馬 達哉 (立命館大学)



15:10～16:40 【30周年大会企画④】若手シンポジウム

若手生命倫理研究者の／と考える生命倫理学の今まで、現在、これから

オーガナイザー：伊吹 友秀（東京理科大学）

シンポジスト：

「患者家系員を含むゲノム研究のデータ共有における倫理的懸念」

高島 響子（国立国際医療研究センター）

「生命倫理学と混合研究法の接点

——インフォームド・コンセント観察研究の経験を踏まえて——」

八田 太一（京都大学）

「米国の出生前診断・選択的中絶と障害児の養子縁組——養子制度研究から生命倫理へ——」

吉田 一史美（日本大学）

指定コメント：松原 洋子（立命館大学）

**B会場（稲盛記念会館 1F：102）**

9:00～10:30 公募シンポジウム VI

人生の最終段階における医療とケアの意思決定支援

オーガナイザー：会田 薫子（東京大学）

シンポジスト：

「多職種でかかわる倫理コンサルテーション

——厚労省「プロセスガイドライン」の実践モデルとして——」

尾藤 誠司（東京医療センター）

「小児医療現場における代理意思決定を支える～話し合いのガイドラインの活用を通じて」

笹月 桃子（九州大学、西南女学院大学）

「医療・ケアに関する本人の意思と最善の間——本人の人生・価値観に基づく意思決定支援——」

清水 哲郎（岩手保健医療大学）

10:40～12:10 公募シンポジウム VII

人生の終末期の医療・ケアについて考え話し合うにはどうしたらいいのか

——国内外の取り組みから考える——

オーガナイザー：児玉 聡（京都大学）

シンポジスト：

「英米のACP関連政策・プログラムの現状と課題」

田中 美穂（日本医師会総合政策研究機構）

児玉 聡（京都大学）

「日本の医療専門職によるACPの現状と課題」

竹之内 沙弥香（京都大学）

「臨床現場で臨終期の患者に適切に対応するために必要なもの」

佐藤 恵子（京都大学）

15:10～16:40 公募シンポジウム VIII

在宅医療・ケアにおける臨床倫理支援の実態と今後の課題

オーガナイザー：長尾 式子（北里大学）、瀧本 禎之（東京大学）

シンポジスト：

「在宅医から見た「意思決定支援」」

足立 大樹（ホームケアクリニック横浜港南）

「訪問看護における多様な困難事例と療養者の意思決定支援」

武 ユカリ（関西医科大学）

「神奈川県湘南西部・県央地域の在宅と介護施設における医療・ケア提供者に対する臨床倫理支援の試み」

竹下 啓（東海大学）

「在宅医療における意思決定プロセスの在り方を考える」

金城 隆展（琉球大学）

C会場（稲盛記念会館 1F：103）

9:00～10:30 公募シンポジウム IX

医療資源の配分問題——理論、基準、評価のつながりを論じる

オーガナイザー：額賀 淑郎（上智大学）

司会：広井 良典（京都大学）

シンポジスト：

「医療資源の配分をめぐる正義論——運の平等論と倫理基準——」

井上 彰（東京大学）

「米国大統領委員会における医療資源の配分問題と倫理基準」

額賀 淑郎（上智大学）

「我が国の医療政策への応用——特に費用対効果評価の試行的導入について——」

齋藤 信也（岡山大学）

指定討論者：広井 良典（京都大学）

第2日目 12月9日(日)

10:40～12:10 公募シンポジウム X

高齢者問題に関する哲学・倫理的、看護学的、宗教学的、介護学的考察

オーガナイザー：船木 祝（札幌医科大学）

シンポジスト：

「独居高齢者と共同体」

船木 祝（札幌医科大学）

「超高齢化社会を良く生き抜くために必要なこと——問題の兆候は、すでに大学生にあり——」

永田 まなみ（熊本大学）

「独居高齢者における「死者との関わり」」

宮嶋 俊一（北海道大学）

「高齢者の在宅介護における介護の意義」

小館 貴幸（立正大学）

15:10～16:40 公募シンポジウム XI

フランス、ドイツ、ヨーロッパにおけるゲノム編集技術の倫理問題

オーガナイザー：小出 泰士（芝浦工業大学）

シンポジスト：

「フランスにおけるゲノム編集の倫理」

小出 泰士（芝浦工業大学）

「ドイツにおけるゲノム編集の諸問題」

浅見 昇吾（上智大学）

「ヨーロッパ法におけるゲノム編集の課題」

小林 真紀（愛知大学）

D会場（稲盛記念会館 2F : 208）

9:00～10:30 公募シンポジウム XII

生命と尊厳9 ——精神医療審査会を問う——

オーガナイザー：大西 香代子（甲南女子大学）

シンポジスト：

「精神医療審査会の概要」

大西 香代子（甲南女子大学）

「精神医療審査会での経験を通して思うこと」

蓑島 豪智（いわくら病院）

「法律委員から見た精神医療審査会の現状と課題」

位田 浩（位田浩法律事務所）

第2日目 12月9日(日)

## E会場(稲盛記念会館2F:210)

9:00~10:30 公募ワークショップ IV

「透析せずに生きたい」と希望する40代末期腎不全患者と「透析しても生きてほしい」と願う両親の意思決定支援のありかた

オーガナイザー:小田 浩之(飯塚病院)

報告者:平川 亮(飯塚病院)

岡 佳子(飯塚病院)

松尾 純子(飯塚病院)

大井 恵子(飯塚病院)

10:40~12:10 公募ワークショップ V

当事者間の対話による臨床倫理——MCD(moral case deliberation)の方法と実際——

オーガナイザー:小西 恵美子(鹿児島大学)

報告者:門岡 康弘(熊本大学)

田代 志門(国立がん研究センター)

服部 健司(群馬大学)

堀井 泰明(天使大学)

15:10~16:40 公募ワークショップ VI

「医療倫理」「研究倫理」「公衆衛生倫理」の教育と国内事例の活用

オーガナイザー:井上 悠輔(東京大学)

報告者:一家 綱邦(国立がん研究センター)

吉田 幸恵(群馬パース大学)

井上 悠輔(東京大学)

藤木 篤(神戸市立看護大学)

## F会場(稲盛記念会館2F:204)

9:00~10:30 一般演題(口演) V若手賞候補者セッション

座長: 武藤 香織(東京大学), 田中 智彦(東京医科歯科大学)

- ① 「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」に  
みる「尊厳死」と患者の意思決定・自己決定権」

秋葉 峻介(一橋大学 博士課程)

- ② 「近代日本の「国民性」言説における身体観と道徳観」

川端 美季(立命館大学)

- ③ 「終末期意思決定における家族の役割と「善終」のあり方

——台湾の「病人自主権利法」の施行とアドバンス・ケア・プランニングの導  
入を中心に——」

鍾 宜錚(立命館大学)

- ④ 「Scoping review: PCIs (participant-centric initiatives) を用いた新しい医学研究  
の現状把握と分析」

濱川 菜桜(大阪大学 博士課程)

中野 瑠美子(大阪大学)

古結 敦士(大阪大学 博士課程)

山本ベバリー・アン(大阪大学)

加藤 和人(大阪大学)

10:40~12:10 2017年度 若手論文奨励賞 受賞者を囲んで

座長: 武藤 香織(東京大学), 鈴木 利廣(明治大学)

### 第1講演

2017年度) 手術看護における倫理的課題に働きかける実践知

岡島 志野 氏(首都大学東京)

### 第2講演

大会ウェブサイトをご参照ください。

第2日目 12月9日(日)

15:10～16:40 一般演題(口演) VI 先端医療技術

座長: 美馬 達哉(立命館大学)

- ① 「わが国の先制医療における「予防的手術」に関する生命倫理的考察  
——遺伝性乳がん卵巣がん症候群をめぐって——」

平野 幸子(東洋英和女学院大学 博士課程, 聖隷佐倉市民病院)

大林 雅之(東洋英和女学院大学)

- ② 「人々が研究者を信頼し、安心して細胞を提供するために必要な要素の解明——  
潜在的細胞提供者への意識調査より——」

鈴木 美香(京都大学)

佐藤 恵子(京都大学)

- ③ 「ゲノム・遺伝子解析の結果返却をめぐる問題——actionabilityを中心に——」

大橋 範子(大阪大学)

- ④ 「ゲノム医療の発展に必要な規制を考える——ドイツ遺伝子診断法からの示唆——」

船橋 亜希子(東京大学)

G会場(稲盛記念会館2F:205)

9:00～10:30 一般演題(口演) VII 臨床倫理・看護倫理

座長: 長尾 式子(北里大学)

- ① 「インフルエンザ予防接種からみる認知症患者のインフォームド・コンセント」

高橋 博子(京都大学)

竹之内 沙弥香(京都大学)

桐谷 麻実(京都大学)

小杉 眞司(京都大学)

- ② 「患者の自己決定権と医師の説明義務」

樋笠 知恵(東京経営短期大学)

- ③ 「異種移植と自然の技術化」

吉田 修馬(東京大学)

- ④ 「スペインにおける臓器提供——制度と実態——」

後藤 新人(早稲田大学)

第2日目 12月9日(日)

10:40～12:10 一般演題(口演) VIII 生命倫理の基本概念

座長: 香川 知晶(山梨大学名誉教授)

- ① 「自律の尊重とは何を意味するのか。」

瀬川 真吾(ミュンスター大学博士課程, 同大学生命倫理学研究所客員研究員)

- ② 「医療における「話し合い」あるいは「対話」の意味

——ナラティブを手がかりにして——

足立 智孝(亀田医療大学)

- ③ 「心の病気と医学」

峯村 優一(京都府立医科大学)

- ④ 「有機体と価値」

堂園 俊彦(静岡大学)

15:10～15:55 一般演題(口演) IX 終末期医療

座長: 児玉 聡(京都大学)

- ① 「患者の意思決定を支えるためのACPに関わる医療者の思い・困難さに関する質的調査」

松枝 文子(社会法人 博愛会 相良病院)

板井 孝太郎(宮崎大学)

- ② 「終末期の末梢輸液を巡る在宅医の語り」

井口 真紀子(上智大学 博士課程, 祐クリニック)

16:00～16:50 国際セッション C(口演) 終末期医療

座長: 児玉 聡(京都大学)

「Problem still remains: 8 months after Enforcement of “Act on Decisions on Life-Sustaining Treatment for Patients in Hospice and Palliative Care or at the End of Life”」

Ilhak Lee (Yonsei University)

## H会場(稲盛記念会館2F:206)

9:00~10:30 一般口演 **X 生命倫理教育**

座長: 堂園 俊彦(静岡大学)

- ① 「医療者教育におけるデューイ興味論の可能性と課題」

尾谷 幸治(群馬大学 修士課程)

- ② 「研究倫理教育効果の評価手法に関する試行的考察

——倫理審査の質向上を目的とした委員の教育・研修を題材として——」

有澤 和代(東京大学)

神里 彩子(東京大学)

- ③ 「医師の裁量と患者の自己決定(2)

——インフォームド・コンセントと医療行為の違法性阻却——」

村岡 潔(佛教大学)

- ④ 「ストレングスファインダーを用いた介護倫理研修プログラムの開発」

角田 ますみ(杏林大学)

10:40~12:10 一般口演 **XI 研究倫理**

座長: 一家 綱邦(国立がん研究センター)

- ① 「倫理審査委員会における「一般の立場」委員の属性に関する実態と今後の課題」

吉田 幸恵(群馬パース大学)

神里 彩子(東京大学)

- ② 「集積された電子診療情報の利活用を促進する政策に伴う課題

——次世代医療基盤法が描く未来への社会学・生命倫理的考察——」

佐々木 香織(小樽商科大学)

- ③ 「人を対象とした非医学系研究における倫理審査の実態調査」

山越 祥子(東京大学)

神里 彩子(東京大学)

三浦 竜一(東京大学)

15:10~16:20 一般口演 **XII 生命倫理と規範**

座長: 神馬 幸一(獨協大学)

- ① 「法および医の各プロフェッションの臨床倫理問題に対する意識の調査」

飯島 祥彦(名古屋大学)

- ② 「養子と里子の「出自を知る権利」に関する社会学的研究

——法律関係という変数に着目して——」

野辺 陽子(高知県立大学)

- ③ 「「女性であるための身体の規範・基準」による女性からの排除

(キャスター・セメンヤと性分化疾患を巡る倫理的論考)」

ヨ ヘイル(ネクス DSD ジャパン)



## ポスター会場（稲盛記念会館2F：209）

12:40～13:40 一般演題（ポスター）II

座長：足立 智孝（亀田医療大学）

- ⑦ 「Slow code の実態とそれに対する医師の基本姿勢について」  
齋藤 信也（岡山大学）
- ⑧ 「ヒトゲノム研究と社会との接点における課題を考える場の構築」  
山崎 千里, 大橋 範子, 加藤 和人（大阪大学）
- ⑨ 「遺伝子解析研究において遺伝医療専門職が経験した困難事例」  
吉田 晶子（理化学研究所）  
中田 はる佳（国立がん研究センター）
- ⑩ 「未承認医療技術への患者アクセスに関する国際状況——米国 Right-to-try 法を中心に——」  
中田 はる佳（国立がん研究センター）
- ⑪ 「臨床倫理の専門家がない市中病院で倫理コンサルテーションを行う上でのコンサルテーションスタイルの論考——当院の事例検証を含んだ理論的論考——」  
吉田 智美, 尾藤 誠司（国立病院機構東京医療センター）
- ⑫ 「高齢者の ACP および選択的意思決定」  
山本 真弓（国際医療福祉大学）
- ⑬ 「終末期医療における患者・家族・医療者の「死」の位置付けについて——治療方針に関する話し合いの条件のために——」  
田淵 綾（九州大学 博士課程）

## 理事会会場（稲盛記念会館2F：会議室）

12:20～13:30 理事会

※ 本大会では上記大会プログラムのほか、日本生命倫理学会 30 周年の歩みのパネル展、一般公開の生命倫理カフェ（自動運転 IA 技術と倫理、その他）、などを予定しております。詳細は、随時大会ウェブサイトにて情報を公開してまいりますので、是非ご確認ください。

閉会式では、「若手優秀口演賞」「若手優秀ポスター賞」の発表および表彰を行います。